

ボランティアに関する意識調査 2026

実施 日本財団ボランティアセンター

設計・監修 二宮 雅也

(文教大学 人間科学部人間科学科教授、日本財団ボランティアセンター 参与)

調査概要と方法

ボランティアに関する意識調査2026

目的：

ボランティア活動の実施割合、頻度ならびに災害支援ボランティアに関する関心、参加意向について把握すること

調査方法：

インターネットリサーチ

調査時期：

2026年1月23日～1月30日

調査対象：

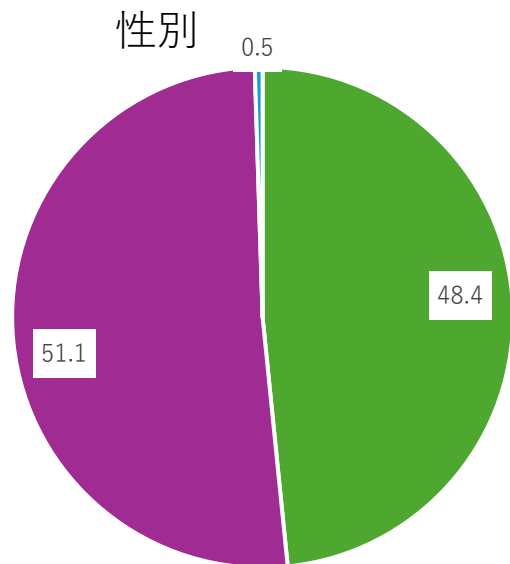
18歳～90歳、東京都・愛知県・大阪府 在住者、それぞれ2,000人

回答者数：

6,000人

※本調査は、日本財団ボランティアセンターからの研究委託に基づいて、文教大学と共同で調査・分析を実施

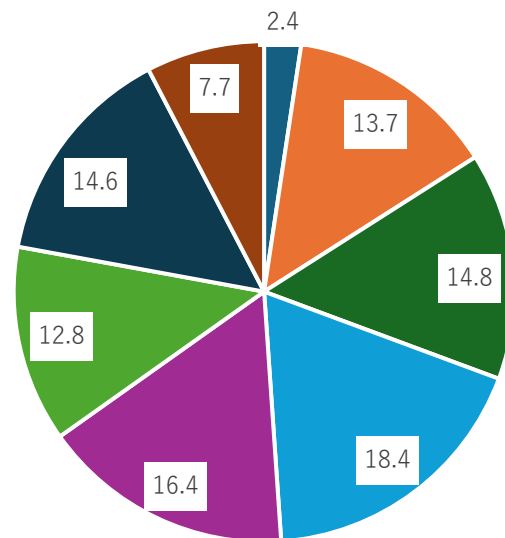
基本的属性



n=6,000

■ 男性 ■ 女性 ■ その他

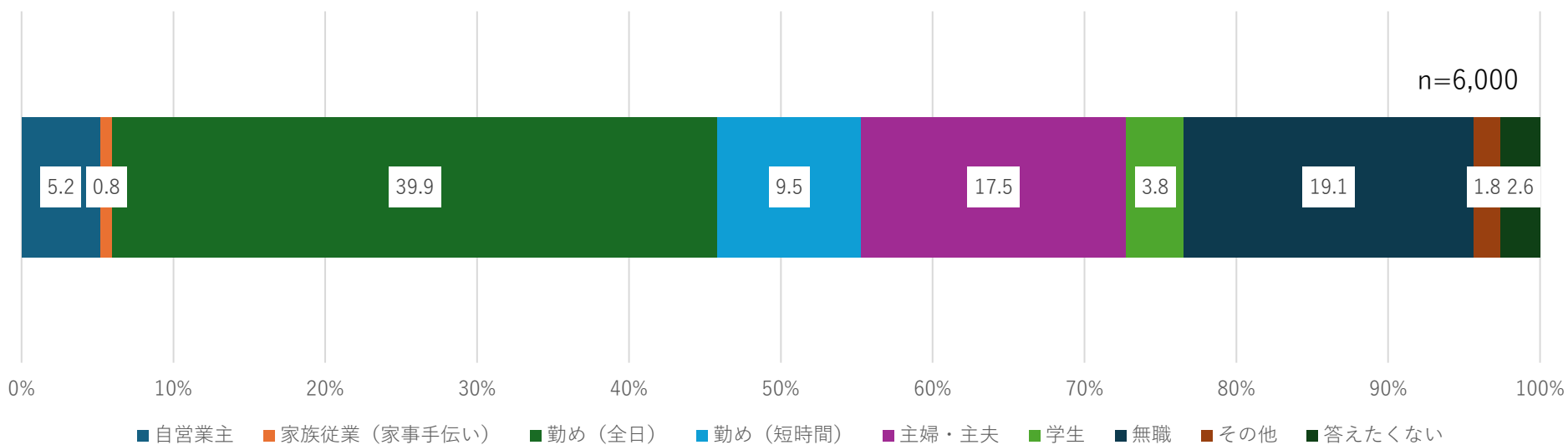
年代



n=6,000

■ 18-19歳 ■ 20-29歳 ■ 30-39歳 ■ 40-49歳 ■ 50-59歳 ■ 60-69歳 ■ 70-79歳 ■ 80-90歳

主な職業



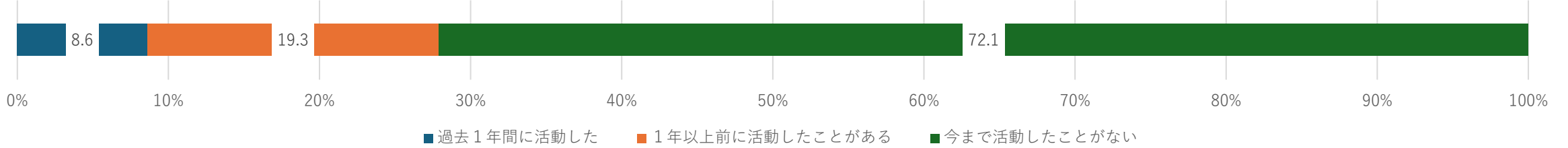
n=6,000

■ 自営業主 ■ 家族従業 (家事手伝い) ■ 勤め (全日) ■ 勤め (短時間) ■ 主婦・主夫 ■ 学生 ■ 無職 ■ その他 ■ 答えたくない

ボランティア活動状況

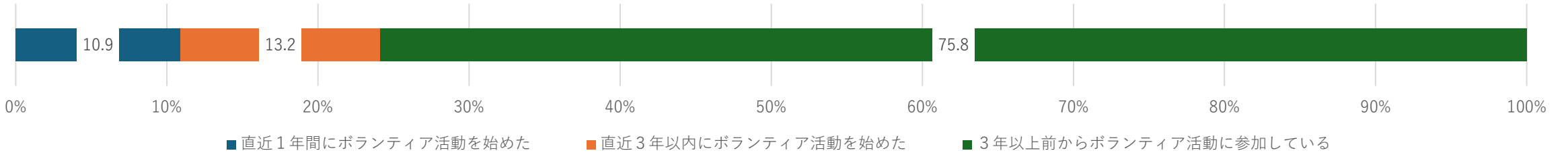
ボランティア活動歴

n=6,000

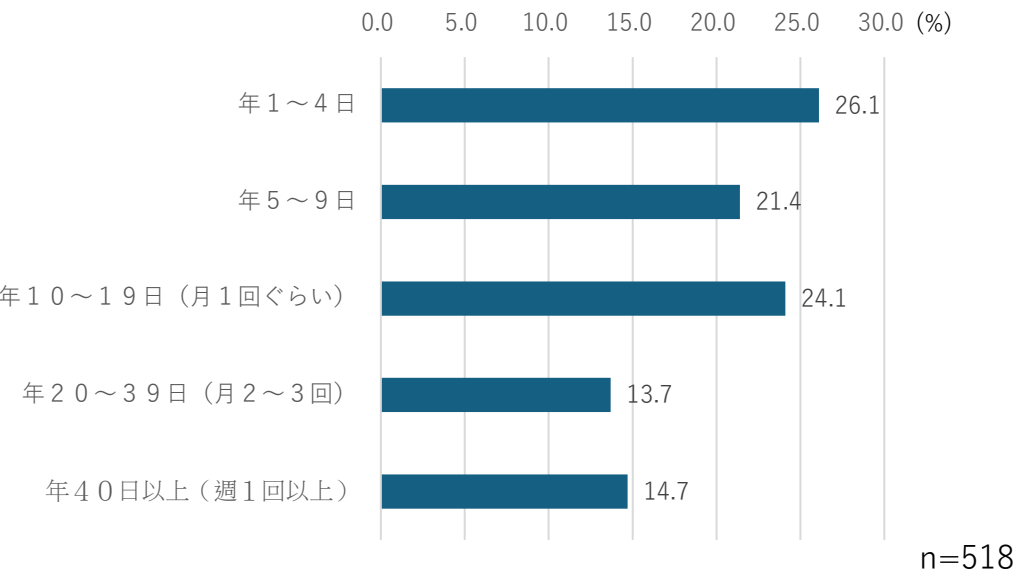


活動を始めた時期

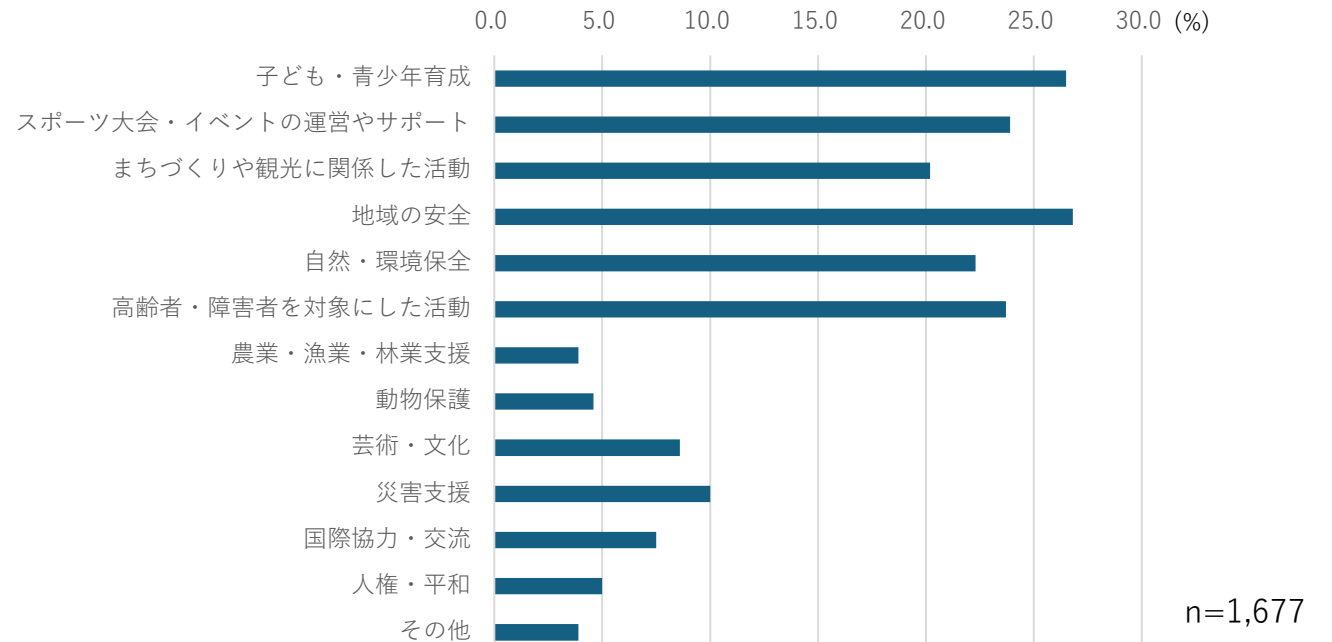
n=1,677



過去1年間の活動頻度

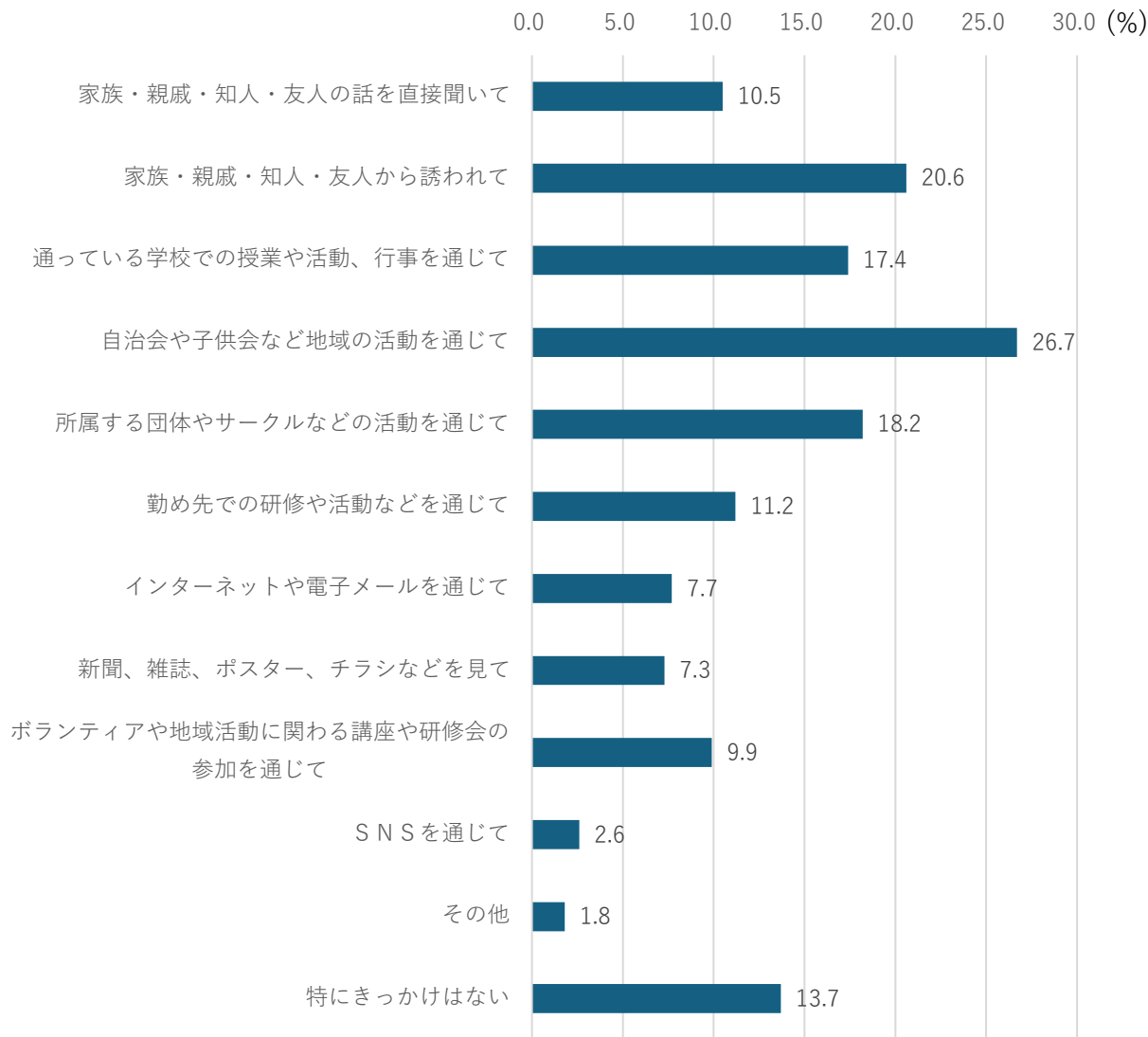


参加したことのあるボランティア活動の種類(複数回答)



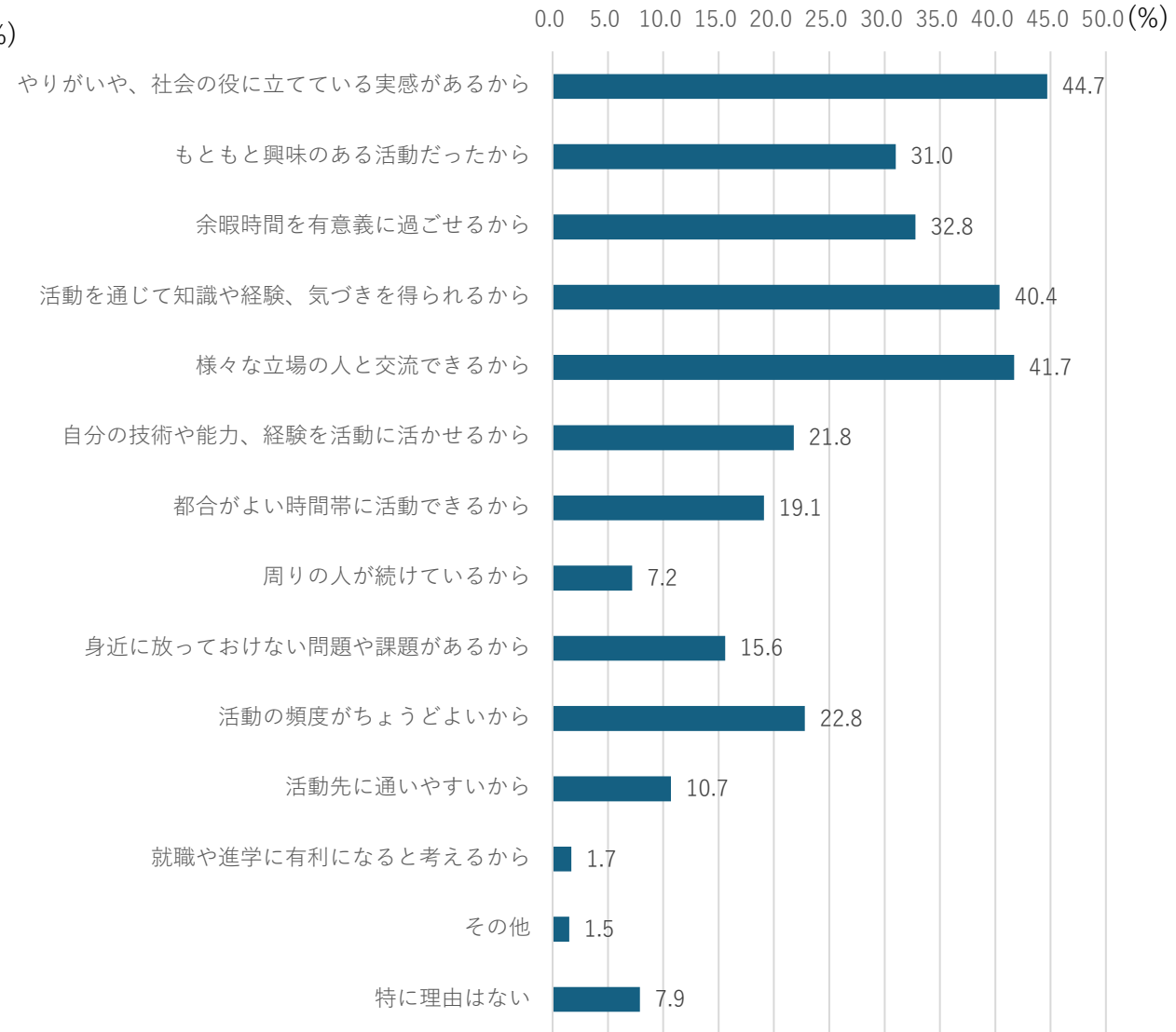
ボランティア活動に参加したきっかけと継続理由

きっかけ



n=1,677

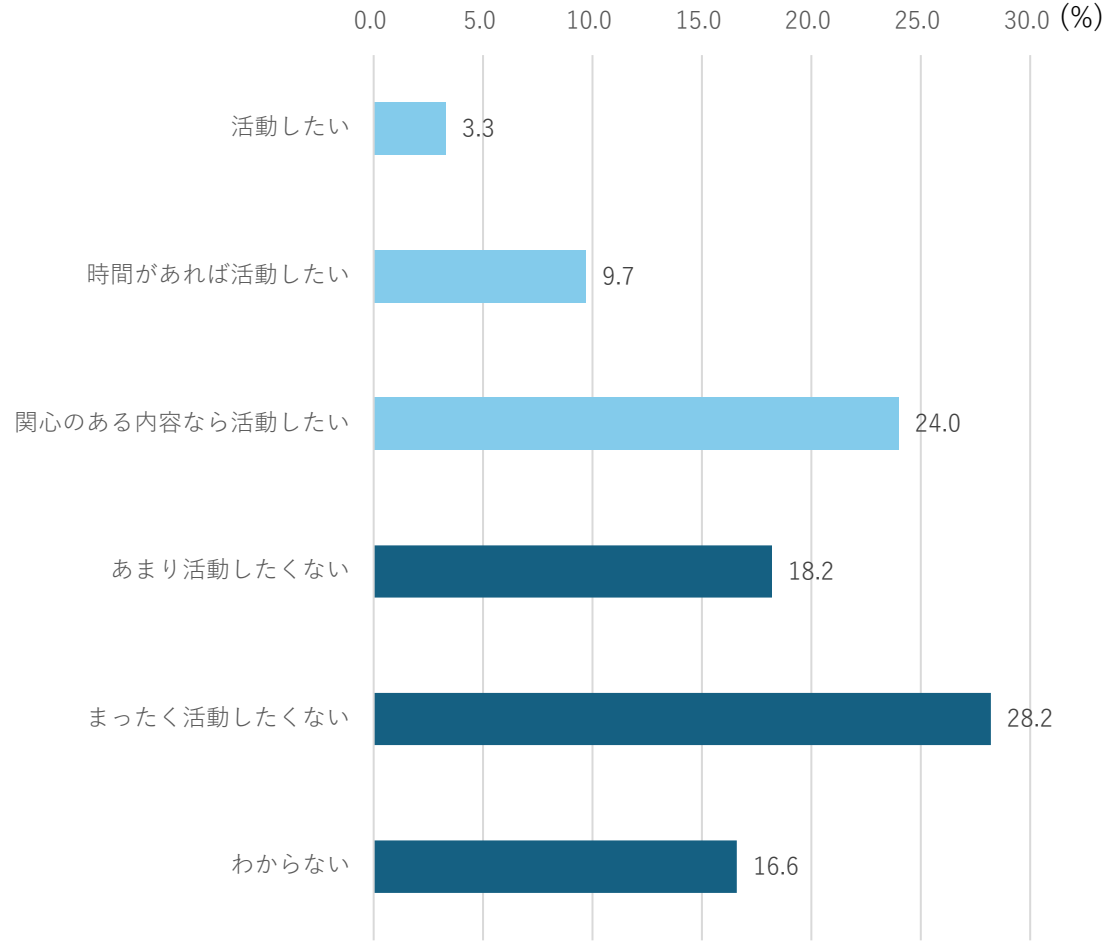
継続理由



n=403

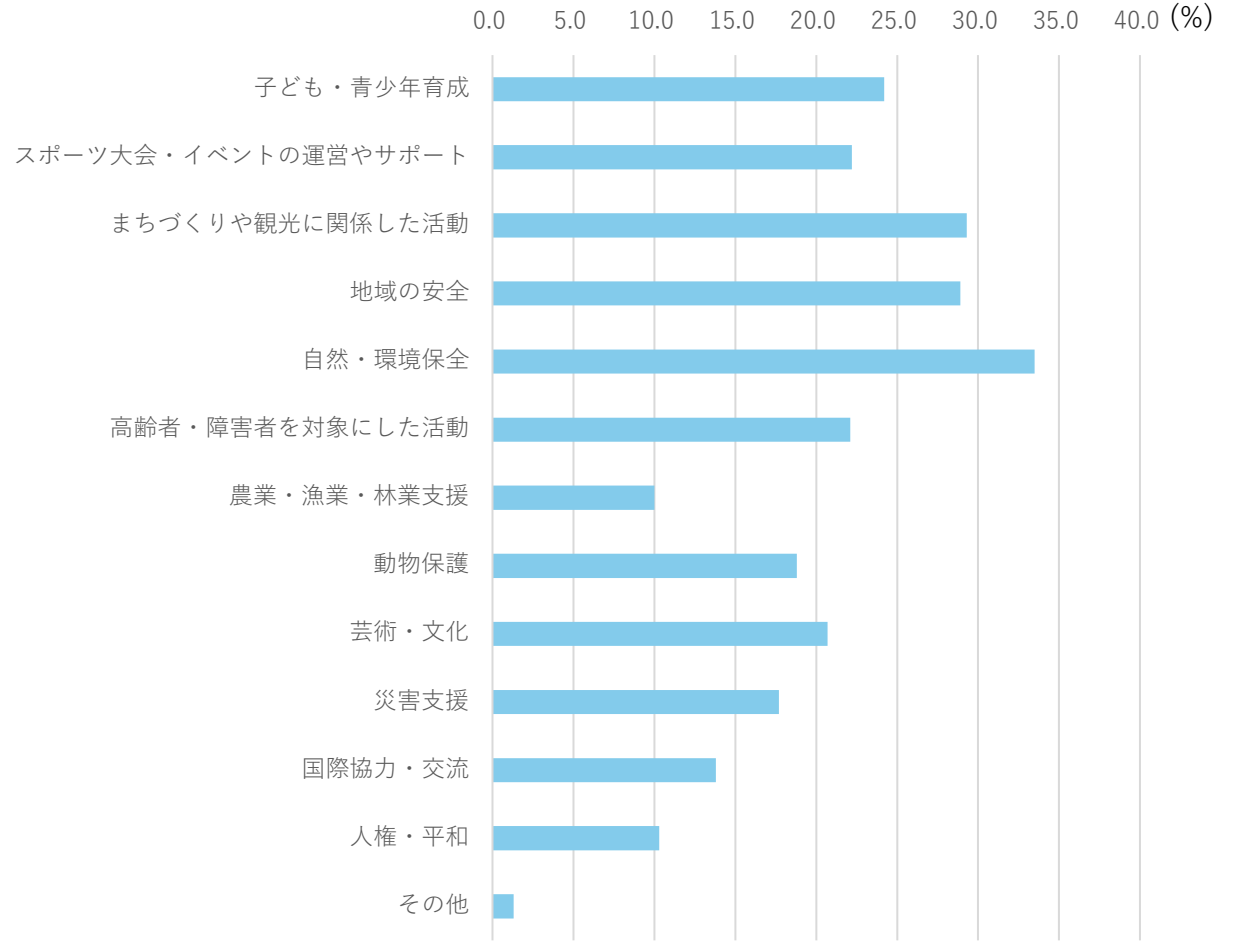
ボランティア活動への参加希望と活動分野

今後のボランティア活動への参加希望



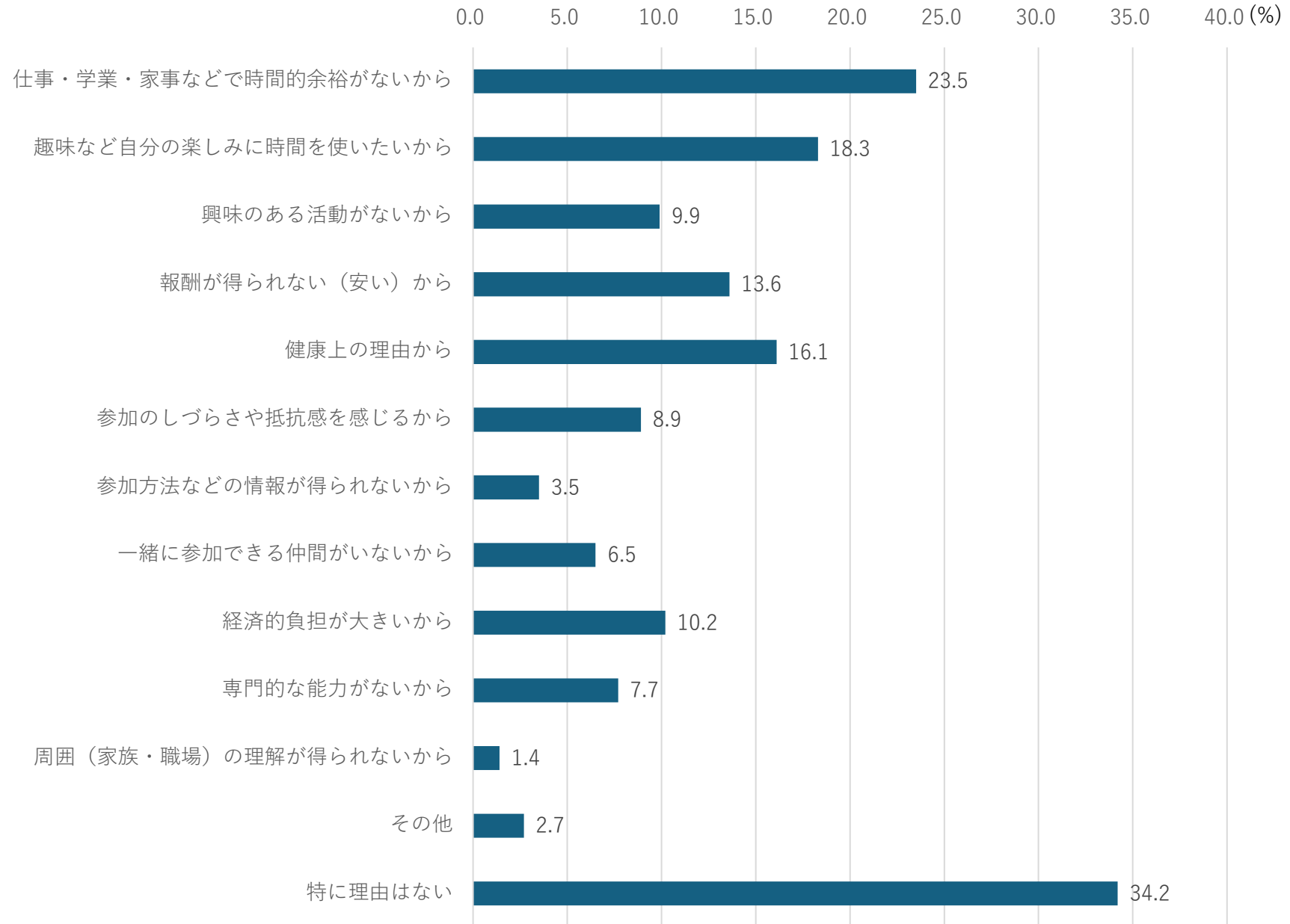
n=6,000

参加してみたいボランティア活動の種類



n=2,219

ボランティア活動に参加しようと思わない理由

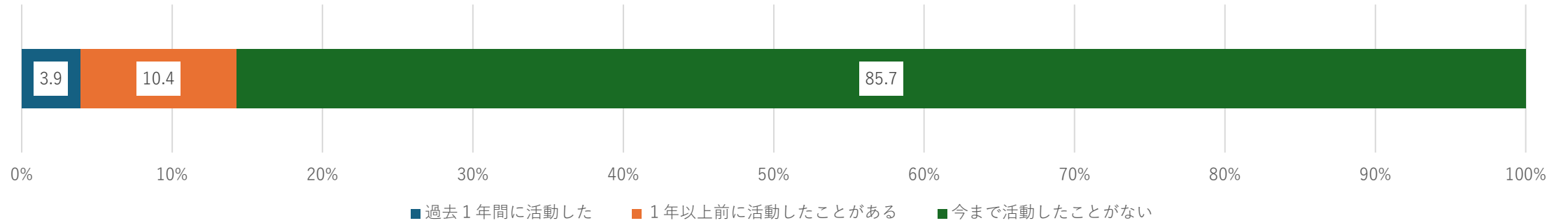


n=3,781

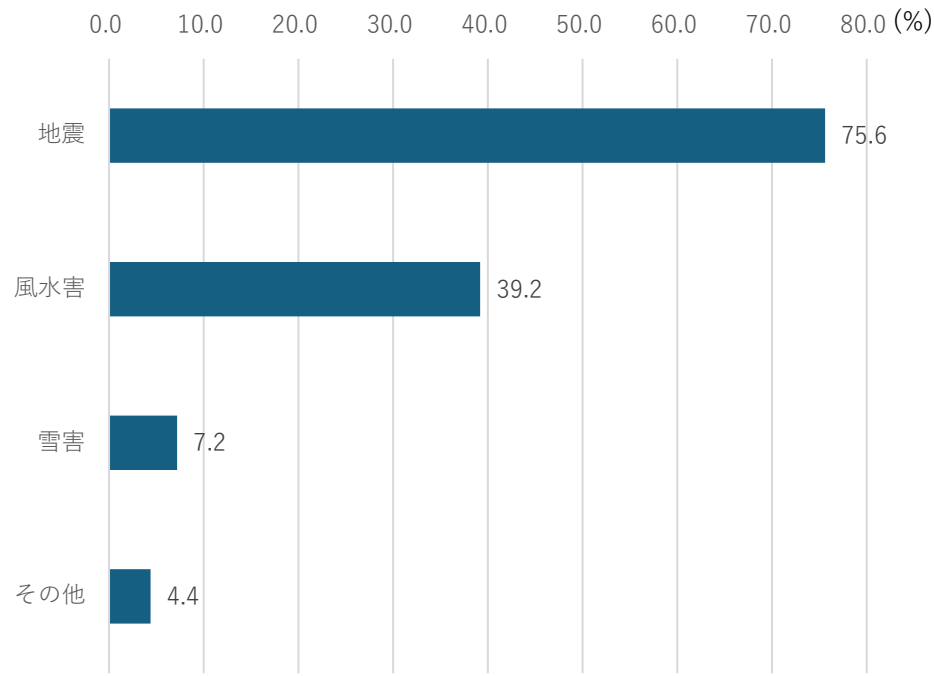
災害ボランティアの状況①

災害支援にかかわるボランティア活動歴

n=6,000

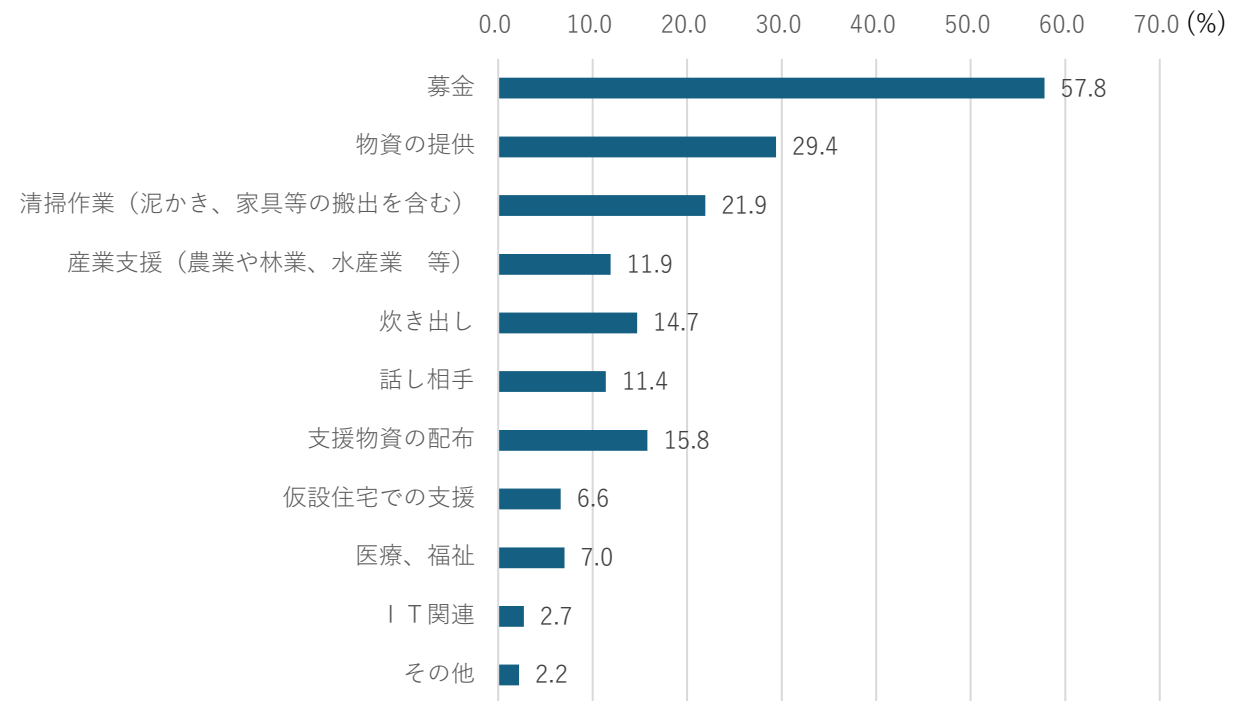


災害の種類



n=860

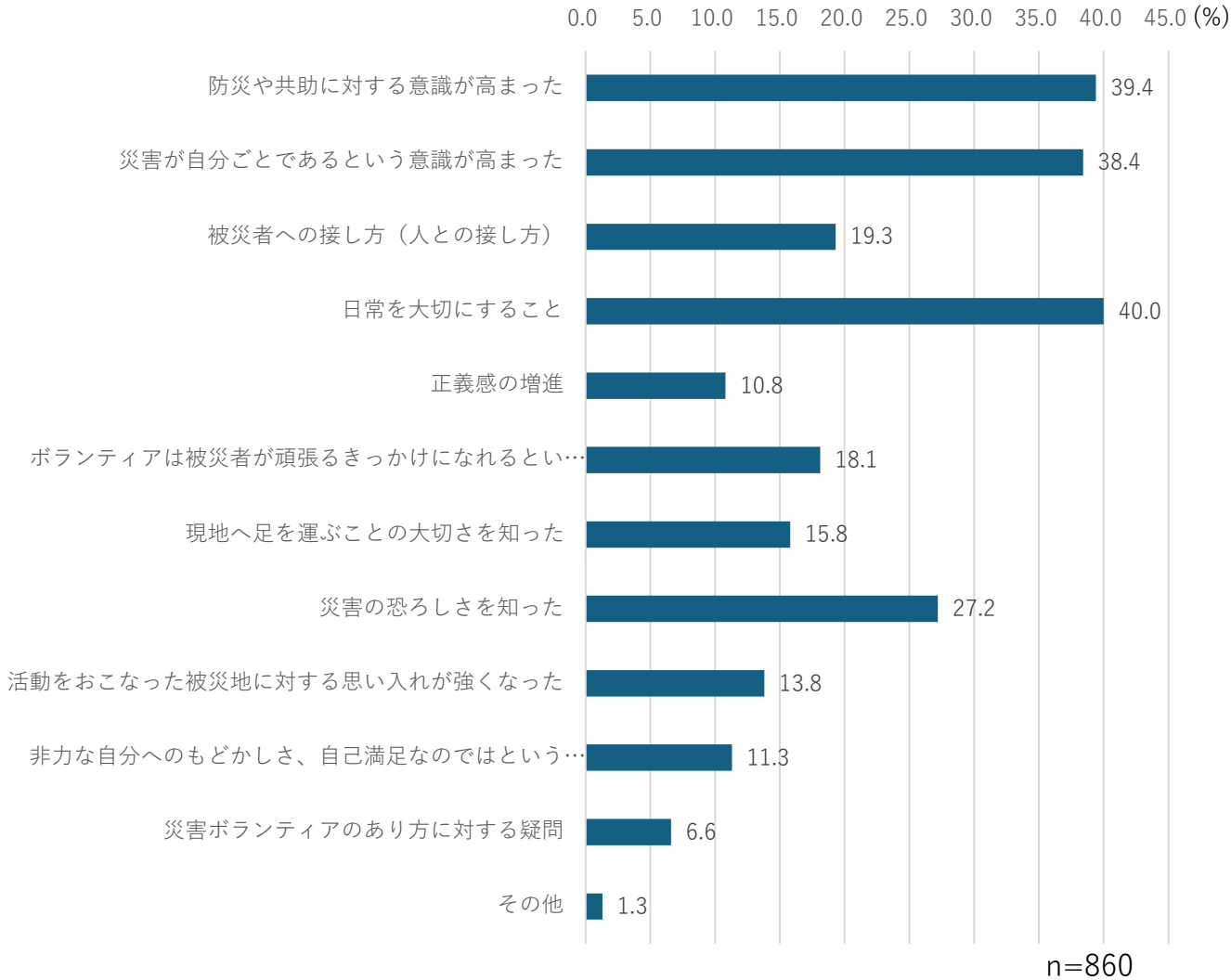
活動内容



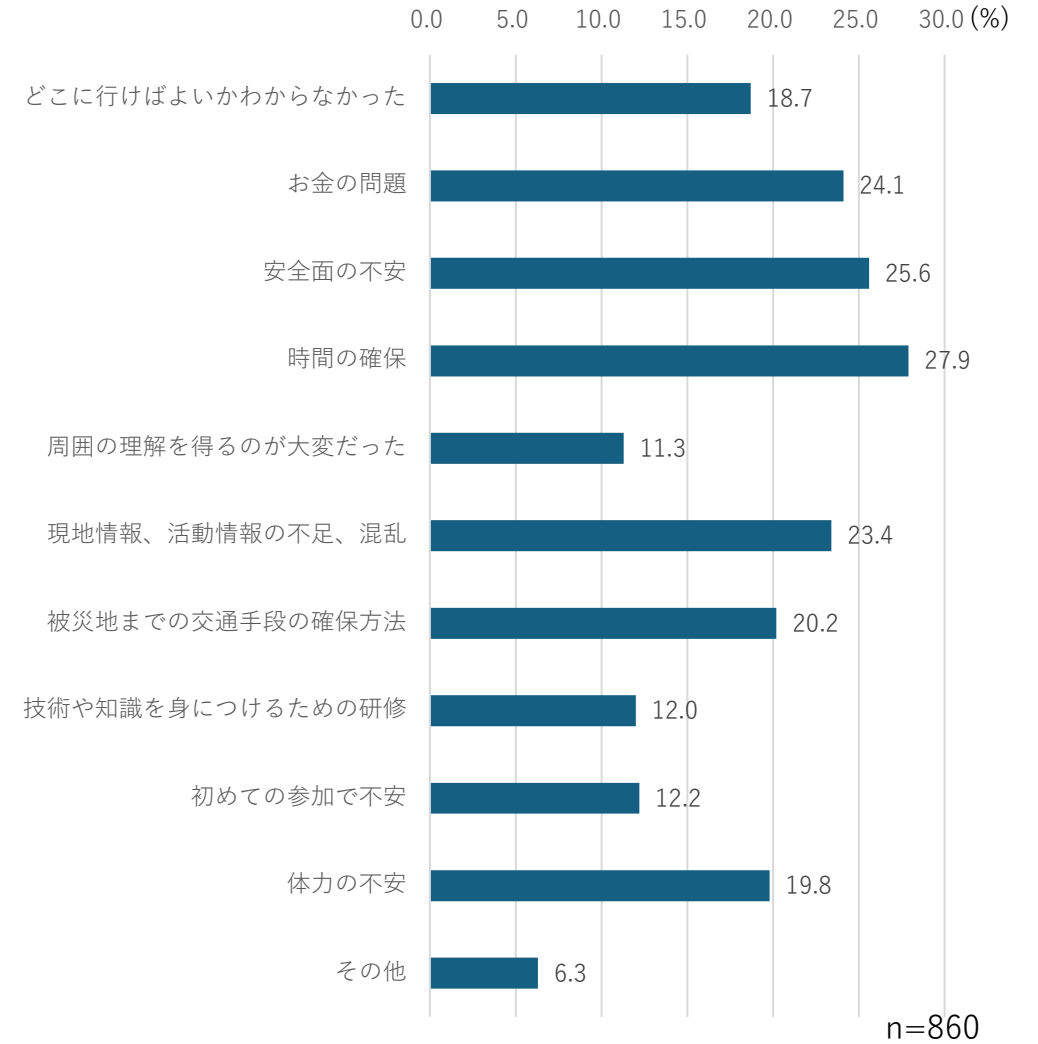
n=860

災害ボランティアの状況②

災害支援ボランティア活動から得られたと思うこと

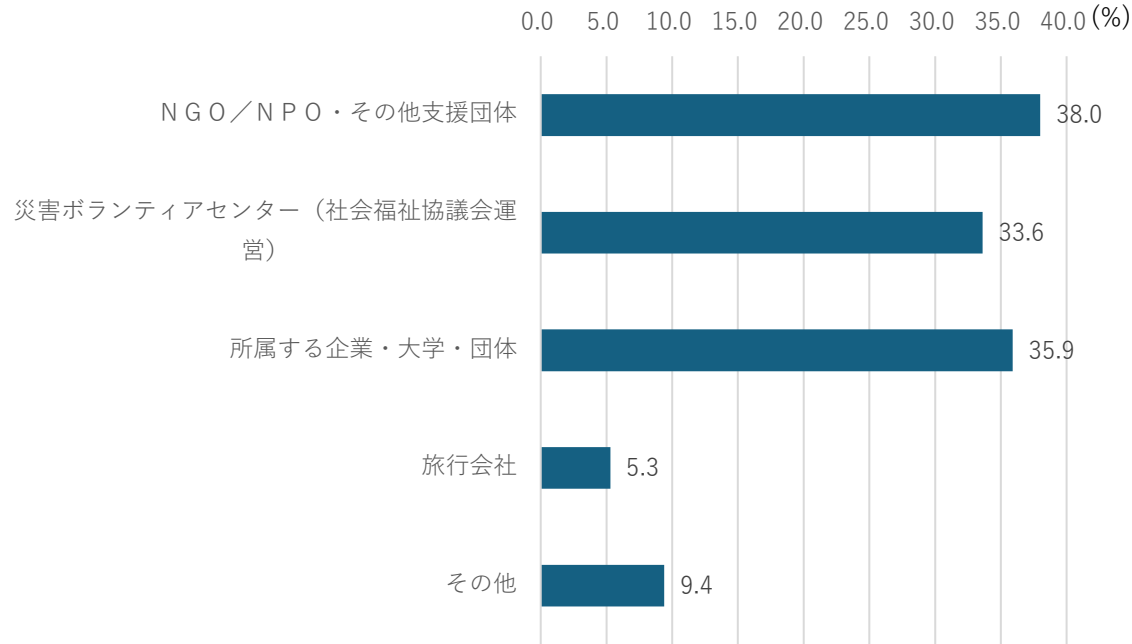


困ったことや問題点



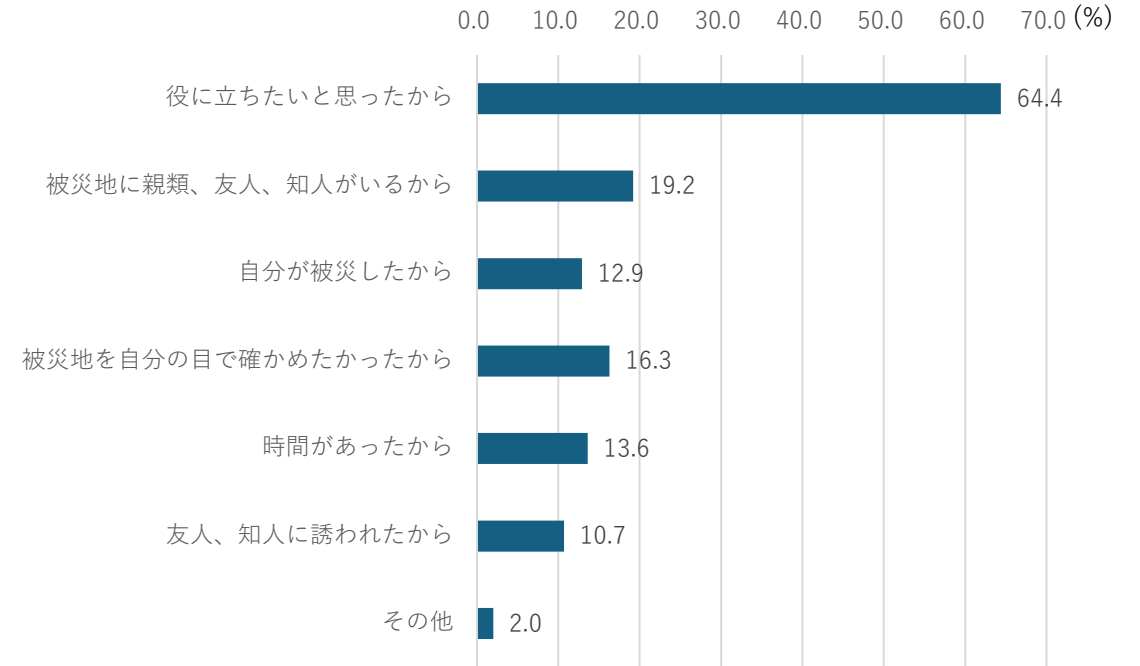
災害ボランティアの状況③

経由した団体



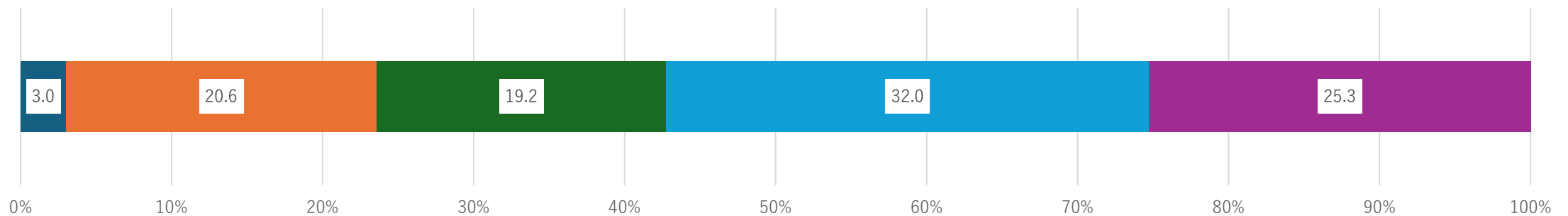
n=860

参加したきっかけ



n=860

今後の災害支援への参加希望

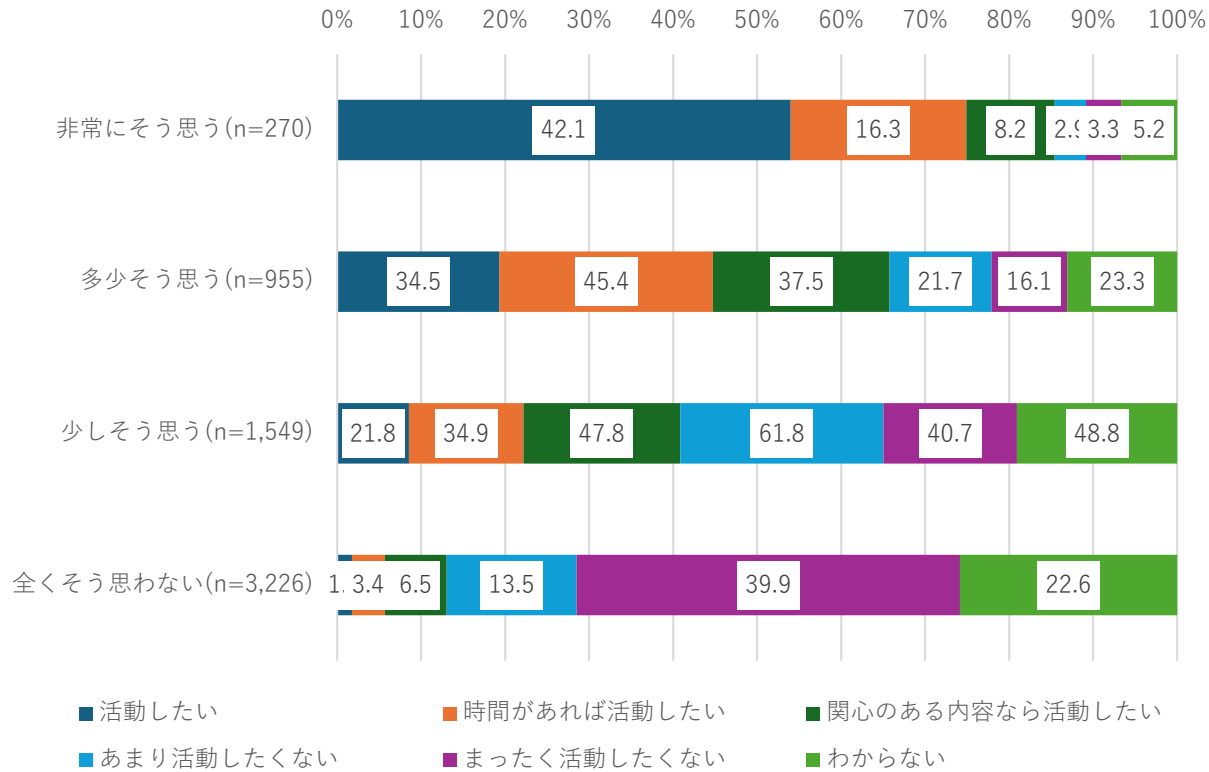


■ぜひ活動したい ■できれば活動したい ■あまり活動したくない ■まったく活動したくない ■わからない

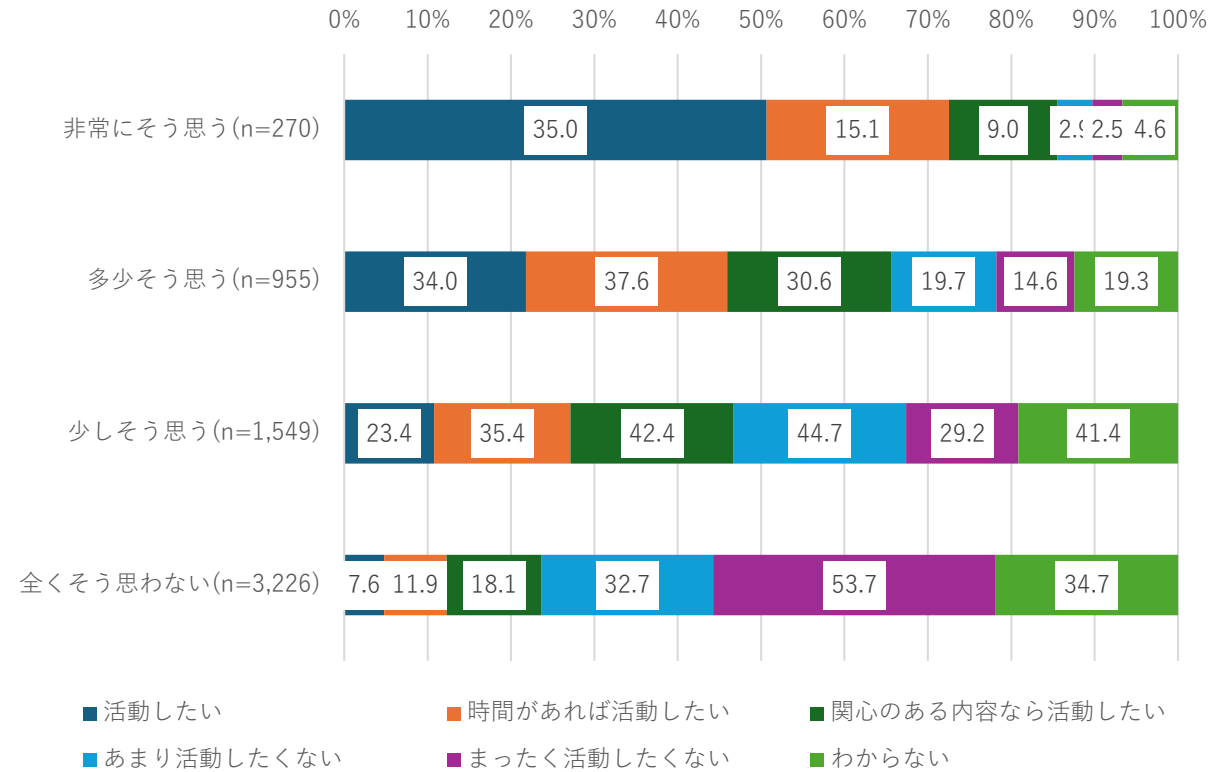
n=6,000

ボランティア参加希望と日常的積極的行動の関係性①

私は困っているような人がいるとほっとけないタチだ



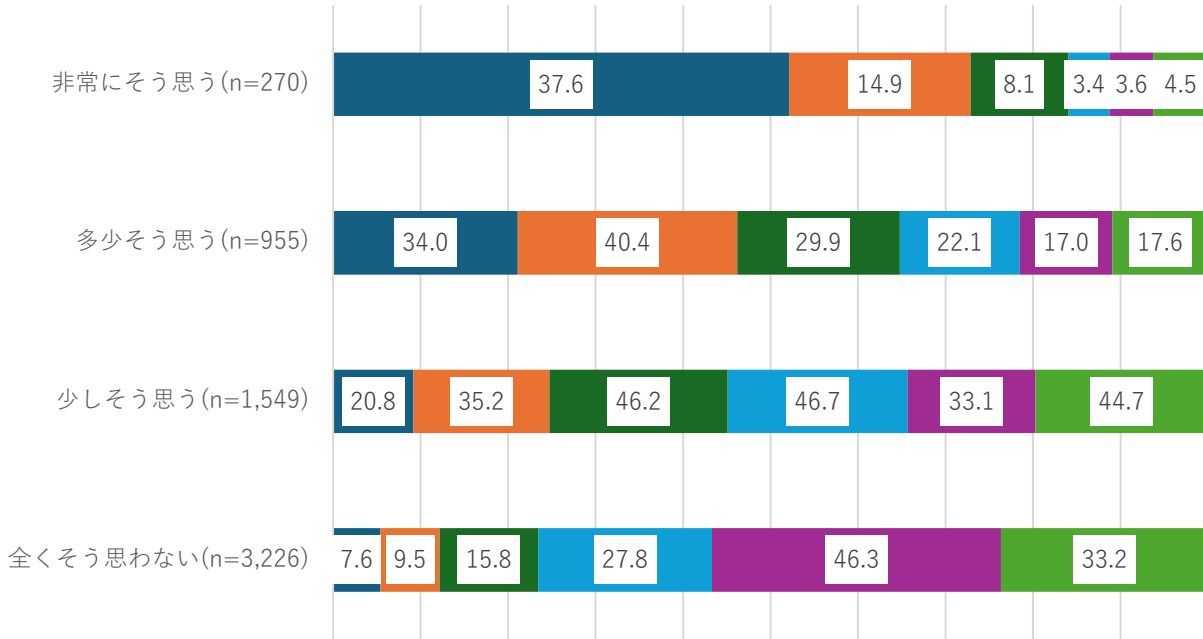
最近、困っている人がいたときに、すすんで声をかけたことがある



ボランティア参加希望と日常的積極的行動の関係性②

私は問題を解決するのが好きだ

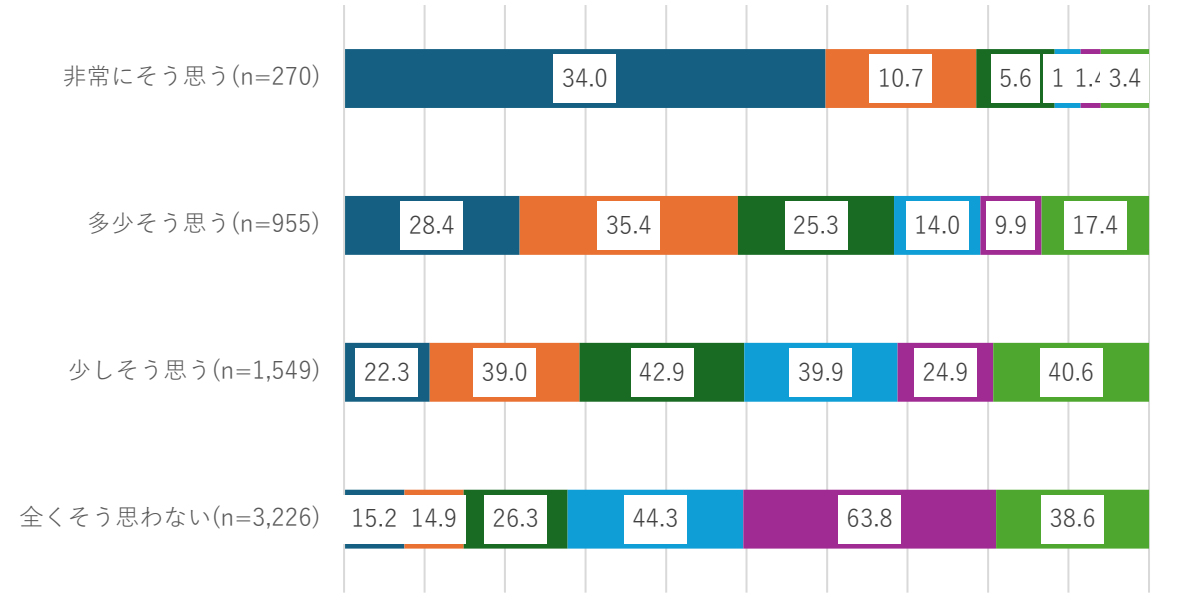
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



- 活動したい
- 時間があれば活動したい
- 関心のある内容なら活動したい
- あまり活動したくない
- まったく活動したくない
- わからない

幼い子どもや高齢の方を世話することが好きだ

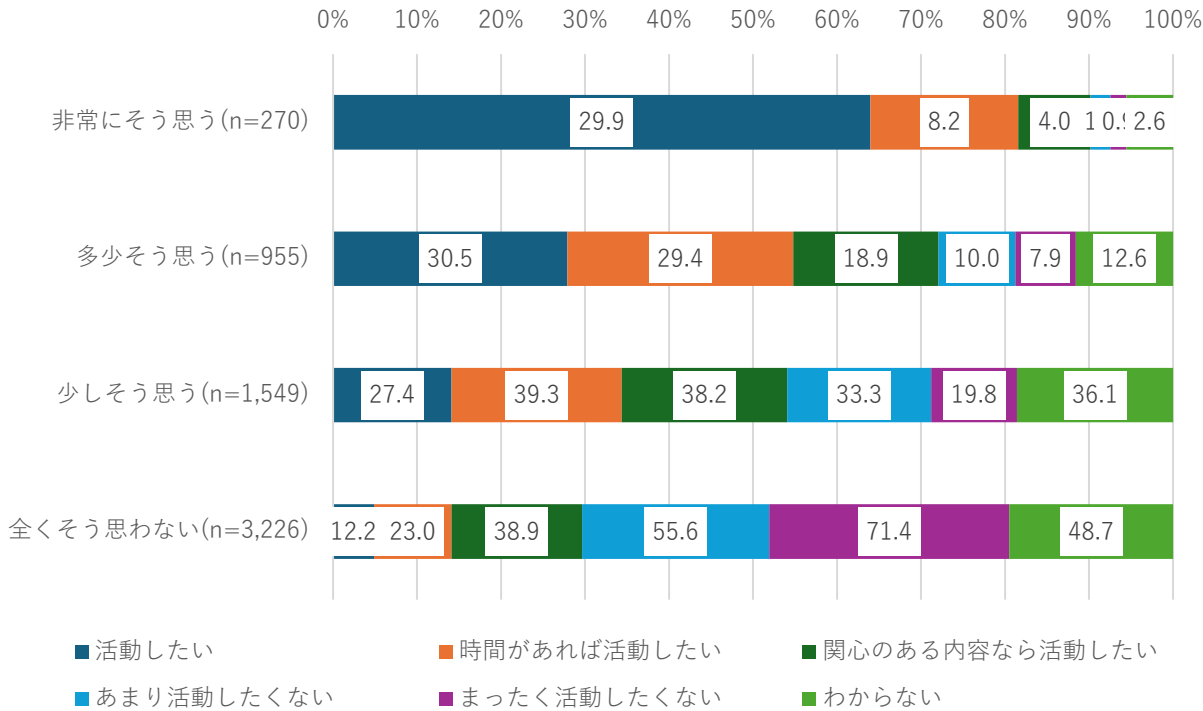
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



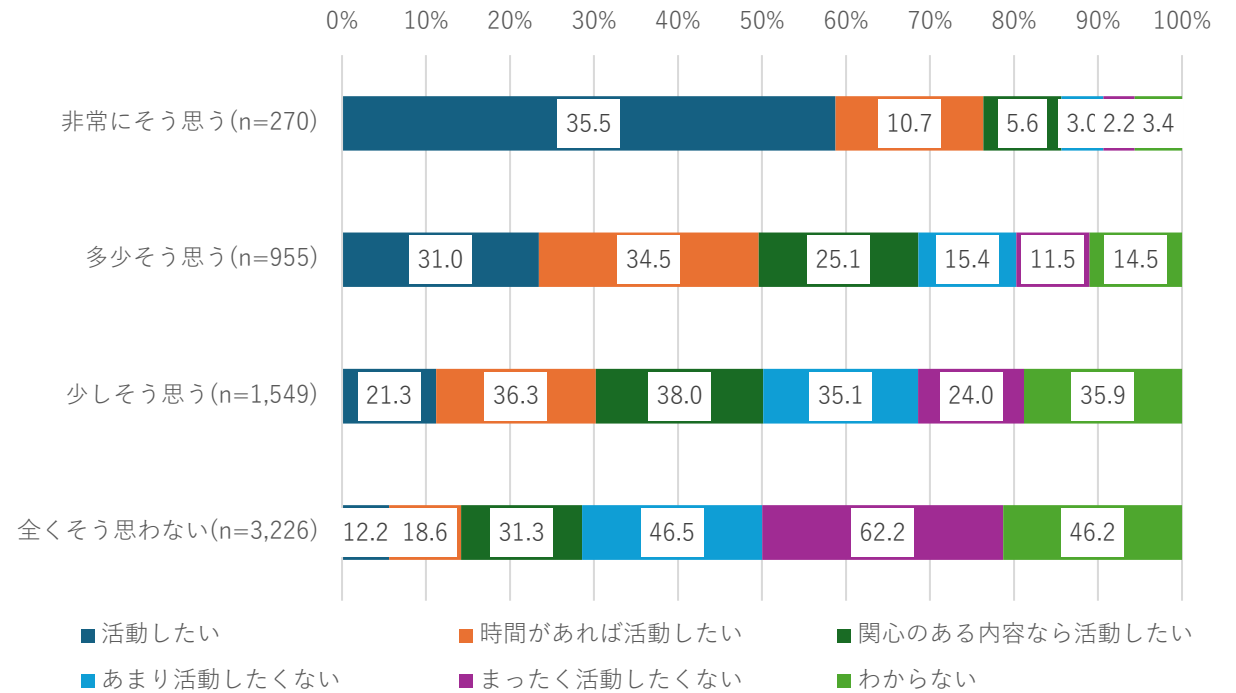
- 活動したい
- 時間があれば活動したい
- 関心のある内容なら活動したい
- あまり活動したくない
- まったく活動したくない
- わからない

ボランティア参加希望と日常的積極的行動の関係性③

私は他人を助けることが自分の使命だと感じている

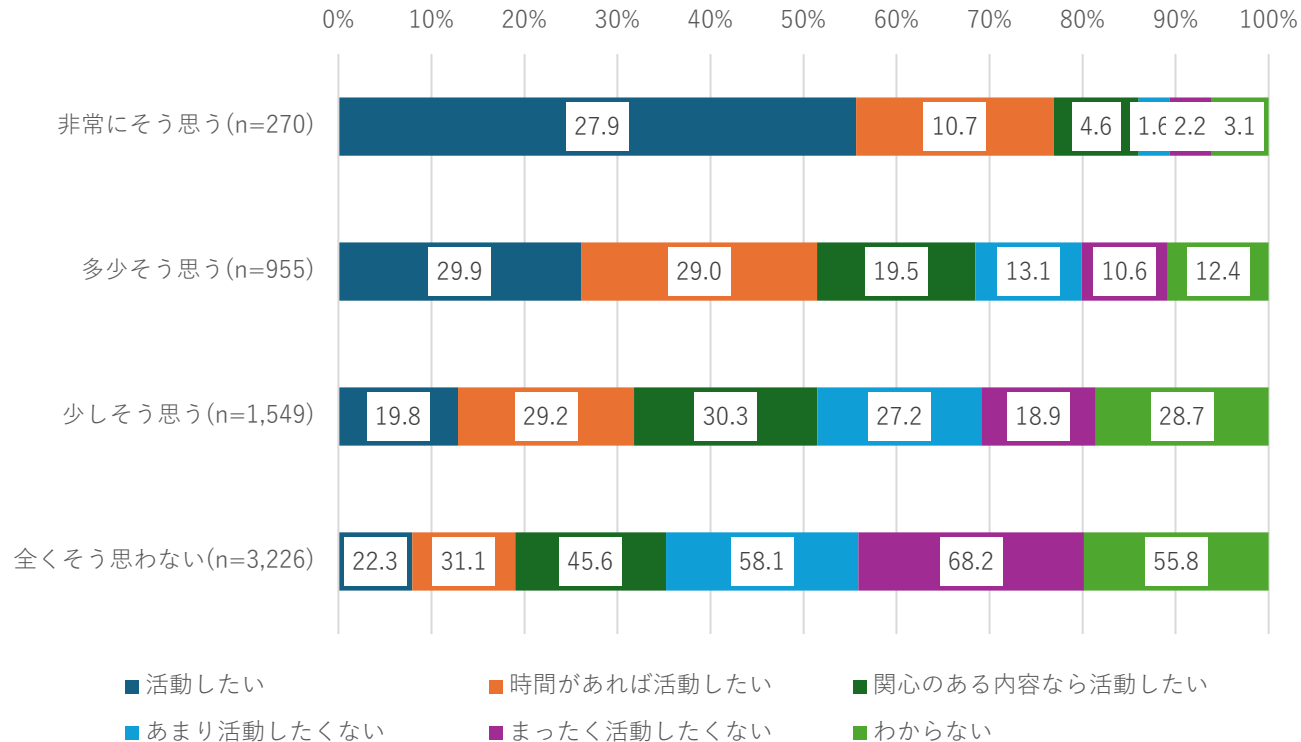


私はチャレンジ（挑戦）が好きだ



ボランティア参加希望と日常的積極的行動の関係性④

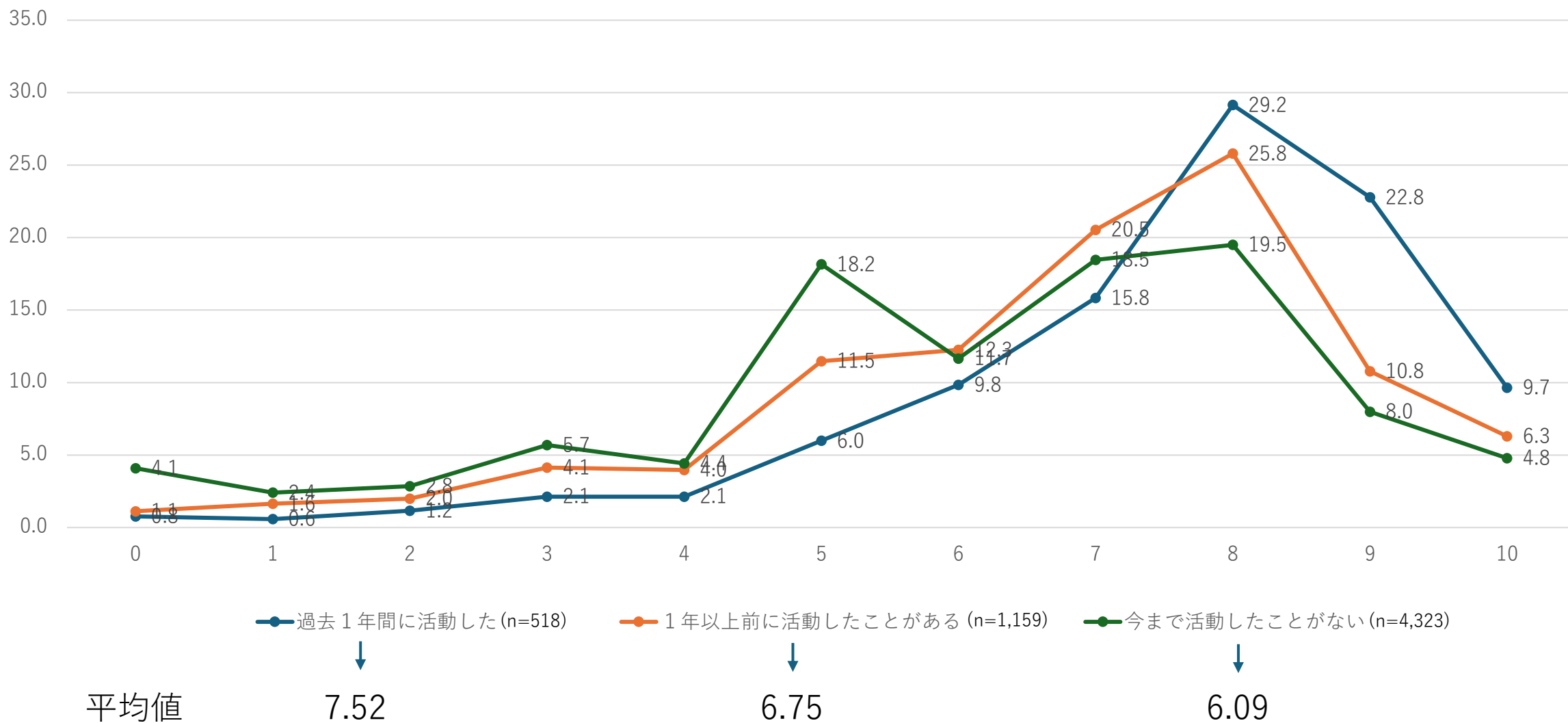
私は普段からリーダー的役割をよく担っている



全ての日常的積極的行動設問項目とボランティア参加希望の関係性は、ボランティア活動参加希望がある人の方がボランティア活動経験がない人に比べて、日常的積極的行動への意識が高い。

ボランティア経験と主観的幸福感との関係性

主観的幸福感の平均値を比較すると、過去1年間にボランティア活動を経験した人と、今まで活動したことがないひとでは、1.43ポイントの差があった。また8点以上において、その差が大きくなっている。



ボランティア参加希望と主観的幸福感との関係性

主観的幸福感の平均値を比較すると、ボランティア活動を活動したい人と、まったく活動したくない人では、2.48ポイントの差があった。また9点以上において、その差が大きくなっている。

